

道

2019年1月1日
(第39号)



小田川

静かな小田川に朝日が反射して眩しい。これが怒りをあらわにした川と同じとは思えない。川の様子も真備の町も一年前と大きく変わった。日本中に「真備」の名が知れ渡った分だけ、真備の町は沈んだ。それでも住民には生活がある。日々の暮らしがある。真備の中で生活する人も、一時的に真備を離れた人も、真備に家を建て直すと決めた人も、真備での生活再建を断念した人も、どうしようか迷っている人も、これからの生活見通しが立たない人も、みんな、生きていかねばならない。その誰の心からも「真備」が離れることはない。▼僕はというと、勤務していたケアマネ事業所を一二月末で退職した。介護保険の制度が始まる頃から二〇年近く高齢者ケアの世界に身を置いてきた。いつしか僕自身も高齢者。これからどうするか、迷う。へケアについて問い考えることだけは続けたいと思う。▼真備の「復興」が始まっている。自分が暮らす地域は、他人任せにできない。自分達みんなで、いろんな違いを乗り越えて、声をあげ、話し合い、考え、体を動かし、共に苦労し汗を流したい。お茶やお酒を飲んだり食事したり、歌ったりしたい。立ち往生することもあろう。思うようにいかないのも人生。お互いに迷惑をかけあえる人が傍にいたら、幸せというものだ。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

TEL. 090-5366-1497

MAIL michi-care@outlook.jp

H.P. <https://michi-care.jimdo.com/>

林 道 也



遠田 椋の木